

2016年度第5回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 近江特別

近江（おうみ）は、東山道の一国。現在の滋賀県。当時の琵琶湖の呼称「淡海」がそのまま使われるようになった。国内最古のブランド牛といわれる近江牛が有名。

○ 貴船ステークス

貴船（きぶね）は、京都市左京区鞍馬にある地名。深山幽谷や貴船川の清流が見られ、祈雨祈晴の神として古くから信仰を集めている貴船神社がある。夏は蟬時雨の中で貴船川の納涼、秋は紅葉、冬は深山の雪景を楽しむことができる。

○ KBS京都賞ファンタジーステークス（GⅢ）

本競走は、平成8年に創設された2歳牝馬限定の重賞競走。芝1400m、馬齢重量戦で実施され、『阪神ジュベナイルフィリーズ』の関西地区における前哨戦として定着している。

ファンタジー（Fantasy）は、「幻想」を意味する英語。また、文学で夢想的な物語全般を指す呼称。

KBS京都は、京都市に本社を置く京都放送の呼称。ラジオは昭和26年、テレビは44年の開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 醍醐特別

醍醐（だいご）は、京都市南東部、伏見区の醍醐寺を中心とする地区。貞観16年（874）に理源大師聖宝が霊泉を発見し、その「醍醐味」を味わったことから寺号としたことが地名の由来となっている。また、豊臣秀吉が盛大な花見を行った場所としても有名。

○ 長岡京ステークス

長岡京（ながおかきょう）は、京都府南西に位置する市。真言宗の乙訓寺、菅原道真をまつる長岡天満宮、西山浄土宗総本山の光明寺がある。名は、延暦3年（784）に桓武天皇が造営した長岡京に由来する。

○ みやこステークス（GⅢ）

本競走は、京都競馬場のダート1800mで実施されていた『トパーズステークス』を、平成22年よりオープン特別競走から格上げし、競走名を変更して創設した重賞競走。なお、第1着馬には同年チャンピオンズカップへの優先出走権が与えられる。

みやこは、その国の中央政府の所在地。日本では長く京都がその地であったため、京都を指すことが多い。

<第3日>

○ 京都ジャンプステークス（J・GⅢ）

本競走は、平成11年に創設された障害重賞競走。芝3170mの別定戦で行われる。高さ80cmの第9号障害、幅約15mのバンケット障害を使用し、遠近感に乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○ 三年坂特別

三年坂（さんねんざか）は、京都市東山区にある通り。名は、清水寺への参道として大同3年（808）に作られたことに由来するといわれている。また、別名の「産寧坂（さんねいざか）」という名は、安産の信仰がある子安観音への参詣道にもあたることから名付けられたとされる。

○ 観月橋ステークス

観月橋（かんげつきょう）は、京都市伏見区の宇治川に架かる橋。古くは桂橋といい、豊臣秀吉の伏見城築城時に豊後大友氏によって架け替えられた際、豊後橋と呼ばれるようになった。その後、幕末期の鳥羽・伏見の戦いで焼失したが、明治時代に再建され、秀吉の月見の伝説にちなみ、観月橋と名づけられた。

○ デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、昭和41年に創設された重賞競走。創設時は1600mだったが、翌年から1400m（49年～52年は1200m）に短縮され、平成9年より再び1600mになった。

デイリースポーツは、神戸新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ 黄菊賞

黄菊（きぎく）は、黄色い花をつけるキクの総称。キクは日本の国花であり、観賞用、切り花用など、その種類は非常に多い。花言葉は「高貴」「高潔」。

○ 修学院ステークス

修学院（しゅうがくいん）は、京都市左京区にある地名。比叡山西麓の近郊農業地帯だったが、昭和 6 年の京都市編入後に市街地化した。名は、比叡山の僧・勝算が平安時代に建立した修学院に由来する。

○ ジャパン・オータムインターナショナル エリザベス女王杯（G I）

本競走は、昭和 45 年に 3 歳牝馬三冠の最終戦として創設された『ビクトリアカップ』を前身とする重賞競走。50 年にエリザベス女王が来日したことを記念して、翌年に現在の競走名に改称された。当初は『ビクトリアカップ』を踏襲し、京都競馬場の芝 2400m、負担重量は定量、3 歳牝馬限定の混合競走で行われていた。その後、古馬牝馬の競走体系改善に伴い、平成 8 年に競走条件が 3 歳以上の牝馬に変更され、牝馬 No.1 決定戦としての意味合いを持つようになるとともに、距離も 2200m へ短縮された。また、平成 20 年に創設された秋季国際 G I 競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』にも指定されている

○ ドンカスターカップ

本競走は、ドンカスター競馬場と京都競馬場が姉妹競馬場となったことを記念して、平成元年に創設された競走。1595 年から競馬が行われていたとされる同競馬場では、最古のクラシックレースであり、イギリスの三冠競走の 1 つである『セントレジャーステークス』が実施される。

ドンカスター（Doncaster）は、イギリスのイングランド中北部、サウス・ヨークシャー州北東部の都市。ドーン川下流域に位置し、古くは織物や炭鉱の町として栄えていた。

<第 5 日>

○ もちの木賞

もちの木は、モチノキ科の常緑小高木。宮城県、山形県以南琉球列島までと朝鮮半島南部および中国舟山列島の暖帯に分布し、海岸や山野に多く見られる。

なお、京都競馬場のパドック中央には、もちの木が植えられている。

○ 比叡ステークス

比叡（ひえい）は、京都市と大津市の境にある比叡山の略称。山頂は京都側の四明ヶ岳と県境の大比叡に分かれる。延暦 7 年（788）に最澄が入山して根本中堂を建立し、延暦寺の勅号を受けて以降、寺域 750 万坪にもおよぶ天台宗の大道場となった。現在では、一山寺院 50 余、末寺 3000 寺を誇る天台宗の総本山として有名。

○ アンドロメダステークス

アンドロメダ (Andromeda) は、ペガサス座の北東にある晩秋の代表的な星座。トレミーの 48 星座のひとつ。名は、ギリシア神話に登場するエチオピア王ケフェウスと王妃カシオペイアの娘アンドロメダに由来する。

<第6日>

○ 秋明菊賞

秋明菊 (しゅうめいぎく) は、アネモネ属キンポウゲ科の植物の一種。名は、秋頃、菊に似た花を咲かせることが由来とされている。別名は貴船菊。京都の貴船地方に多く見られ、古くから観賞用として栽培されている。花言葉は「忍耐」「薄れゆく愛」。

○ 衣笠特別

衣笠 (きぬがさ) は、京都市北区の地名。また、京都市の市街地北西にある山。標高 201 m。宇多天皇が真夏に雪景色が見たいと、衣笠山に絹をかけたとう故事から、「きぬかけ山」ともよばれる。南麓を走る「きぬかけの路」沿いには金閣寺・龍安寺・仁和寺などがある。

○ ジャパン・オータムインターナショナル マイルチャンピオンシップ (G I)

本競走は、昭和 59 年に創設された重賞競走。日本における競走体系は長く長距離路線が重視されていたが、近代競馬においてスタミナとともにスピードも重視されるようになり、短距離路線についても整備が図られた。文字通りマイラーのチャンピオンを決める一戦として、『安田記念』と並び大きな目標となっている。また、平成 20 年に創設された秋季国際 G I 競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』にも指定されている。

○ 西陣ステークス

西陣 (にしじん) は、京都市上京区の今出川大宮を中心にして、北は鞍馬口通、南は一条町、東は新町通、西は千本通に及ぶ。名は、応仁の乱において西軍の山名宗全が陣を置いたことに由来する。特産品として西陣織が有名。

<第7日>

○ 高雄特別

高雄 (たかお) は、京都市右京区の地名。清滝川に接し、古くから京都郊外の紅葉の景勝地として有名。梶尾 (とがのお)、槇尾 (まきお) とともに三尾と呼ばれる。

○ 花園ステークス

花園（はなぞの）は、京都市右京区の地名。名は、清原夏野が別荘のあったこの地に多くの草花を植え、花園と呼ばれたことに由来する。

○ ラジオ N I K K E I 杯京都 2 歳ステークス（GⅢ）

本競走は、平成 26 年にオープン特別から格上げされた重賞競走。昭和 34 年から続く伝統ある競走で、平成元年まで 1400～1600m で実施されていた。その後、2 年に 1800m に、14 年には 2000m に距離が延長され、2 歳馬の距離適性を測る試金石となるレースとなっている。

ラジオ NIKKEI は、日経ラジオ社が運営する短波放送局の愛称。前身となる日本短波放送時から中央競馬実況中継をはじめとする様々な競馬番組を提供している。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 8 日>

○ 白菊賞

白菊（しらぎく）は、白い花をつけるキクの総称。キクは、キク科キク属の植物で、種類が非常に多い。野山に自生する野生ギクと、栽培ギクに大別され、栽培ギクには観賞用と食用がある。花言葉は「誠実」「真実」。

○ 渡月橋ステークス

渡月橋（とげつきょう）は、京都市右京区桂川に架かる全長 155m の橋。名は、亀山上皇が上空に移動していく月を眺めて「くまなき月の渡るに似る」と述べた故事に由来するとされている。

○ オータムリーフステークス

オータムリーフ（Autumn Leaf）は、紅葉を意味する英語。京都には紅葉の名所が多く、京阪電鉄沿線には「通天紅葉」で有名な東福寺や宇治の三室戸寺、長岡京市の粟生光明寺などがある。

○ 京阪杯（GⅢ）

本競走は、昭和 31 年に創設された『京都特別』を前身とする重賞競走。当初は 2200m のハンデキャップ戦として実施されていた。36 年には現在の競走名に改称され、その後、幾度かの変遷を経て、平成 18 年より 3 歳以上、芝 1200m の別定重量で行われている。

京阪ホールディングスは、大阪市に本社を置く株式会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている